

キャラクター名
クーパー・ロジャース

プレイヤー名

シンドローム	ウロボロス		ワークス	UGN支部長A	カヴァー	
	パロール					
オプション		年齢	39	性別	男	
覚醒	感染	衝動	自傷	初期侵食率	37	%
出自	83 親戚と疎遠	経験	51 子宝	邂逅	30 借り	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	28
肉体	1	1	0			2	行動値	8
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	8
精神	4	0	0			4	戦闘移動	13
社会	1	0	0			1	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	6		RC			交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	4	
運転:	10		芸術:			知識:レネゲイド			情報:UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
骨の銃	射撃	4r+5		Lv+5		ダメージ+2D10

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
バイク	
コネ:UGN幹部	
コネ:傭兵	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
遺産継承者:ジャイアントキル	P	N		
相棒	P	N		
子供	P	N		
エルヴィン・シュナイダー	P	感服	N	隔意
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 10 残り財産P: 3

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
極限暴走	1	(3)	常時		自身	自動		
効果: [オーヴァードに一点でもダメージを与えた場合]とあるエフェクトは、自分が暴走したときにも使用できる								
破壊の戦車	5	2	セットアップ		効果参照	自動		
効果: 搭乗状態・同乗状態にあるPCのみを対象とする。搭乗・同乗状態のとき、攻撃のダメージ+[Lv*2]								
斥力跳躍	1	1	マイナー		自身	自動		
効果: 飛行状態で戦闘移動 移動距離+[Lv*2]m								
骨の銃	1	3	マイナー		自身	自動		
効果: ダメージ[Lv+5]の射撃武器を作成し、装備する								
原初の赤:ペネトレイト	1	4	メジャー		-	白兵/射撃		
効果: 装甲無視 ダイス-1個								
コンセントレイト:ウロボロス	2	2	メジャー		-	S		
効果: C値-[Lv]								
蝕命の魔眼	1	0	メジャー/リアクション	-	-	効果参照120,自傷		
効果:全てのメジャー/リアクションと組み合わせ可能。組み合わせた判定の侵蝕率を0にする その後、上昇するはずだった侵蝕率分のHPを失う シナリオ一回								
原初の緑:エースドライバー	1	2	リアクション		自身	運転:		
効果: ドッジを行える								
リフレックス:モルフェウス	2	2	リアクション		-	S		
効果: C値-[Lv]								
孤独の魔眼	2	4	オート		自身	自動		
効果: 自分を対象に含む[対象:範囲(選択)]の攻撃の対象を自分一人に変更する シナリオLv回								
背徳の理	3	3	オート		自身	自動		
効果: シーン中、ウロボロスのエフェクトを組み合わせた判定のダイス+[Lv*2]個								
屑鉄の橋	★							
効果:								
ポケットディメンジョン	★							
効果:								

【三行説明】
 とある支部の支部長。支部長とは言うが、ハイスクール時代から付き合いのある『相棒』と二人揃っての支部長である元々国家警備隊に所属しており、運転技術はその時に培われた。しかし、軍にいたとは思えないほど自由な気風で口も悪い。一通りの運転技術はあるが、主に二輪車の運転を得意としており、戦闘時にもその腕前を遺憾なく発揮する。

【詳細】
 「俺は滅多なことじゃキレたりしねェクールガイだ。ただまあ……ちっと世間一般の『キれる』と俺の『キれる』は定義が違うらしい」「規律を一から十まで明記するなんてバカのやることだ。場合によるからな。例えば法定速度なんてもんを考えた奴は史上最悪のバカだ」「だから支部のルールなんてもんは殆ど書いてねえ。この支部で覚えなきゃいけないことは二つ！ 自分のオツムで考えること。そして、俺の身長を測らねえことだ。簡単だろ？」

とある支部の長を務めるオーヴァード。20年前にレネゲイドが拡散した時には既に国家警備隊にて、ダートバイクや装甲車を使った陸路の運輸を得意とし、砂漠が多い地域で二輪車を用いた奇襲・護衛任務を任されていた。年齢や経歴にそぐわない身長を測られたり、からかわれたりすることを非常に嫌がる理由はこの時期にあるのではないかと睨まれているが、本人が教える気がないのでそれまでだ。
 一体いつごろからオーヴァードになっていたのか、本人もあまり自覚していない。確かなのは15年前程、スカイダイビングで任務の開始地点に降下する際に愛用のバイクと共に降下するという離れ業をやったのけたことだ。それは本人曰く『オーヴァードになる前』のことらしい。そのようなことを人間だった頃から出来たらオーヴァードになったと自覚するきっかけは中々巡ってこなかっただろう
 自分がオーヴァードだと気付いたのは警備隊の任務中、あるオーヴァードを取り押さえた時だ。普通にオフロードバイクを駆り、普通に容疑者を捕まえたただけだと思っていた彼は自分が《ワーディング》内で動いているとも認知していなかった。その後、クーパーには正式にUGNからオファーが来て、紆余曲折あったようだが今に至る。

【パーソナリティレポート】
 クーパーに初めて会った時から「こいつはスピード狂だ」と一目で分かった。